

2025年度（公社）新潟県栄養士会 JDA-DATスタッフ教育研修（報告）

○開催日時：2025年11月9日（日）9:00～16:30

○場所：シティーホールプラザ アオーレ長岡（市民交流ホールB.C）

○対象者：JDA-DATリーダー・スタッフ、新潟県栄養士会災害対策委員会業務執行部、その他希望者

○参加人数：36名

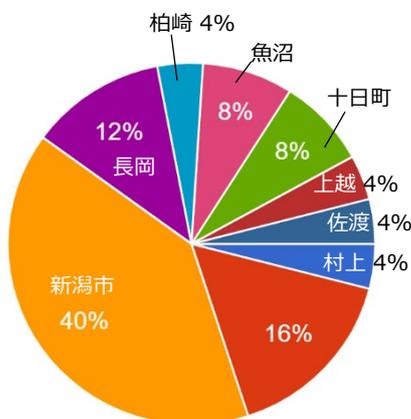
○研修会内容

- ・研修Ⅰ 講義「非常食から災害食へー非常時の食に関わる5つの障害ー」
 JDA-DATとして押さえておきたい災害時の食の捉え方
 講師：一般社団法人 日本災害食学会理事・副会長
 新潟大学フードサイエンスセンターアドバイザー 別府 茂氏
- ・研修Ⅱ 演習「災害時支援計画に関する訓練」
 災害対策アクションカードを用いた発災から本部立ち上げまでのシミュレーション体験
- ・研修Ⅲ 講義・ワークショップ「災害時の栄養・食生活支援活動の展開に向けた
 平常時から取り組む民間組織としての対応」
 講師：公益財団法人 味の素ファンデーション マネージャー・防災士 原 裕樹氏

○アンケート結果（回答数：25）

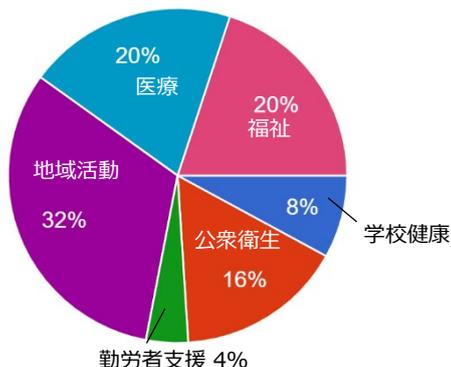
《所属支部》

村上	1
新発田	4
新潟市	10
三条	0
長岡	3
柏崎	1
魚沼	2
十日町	2
上越	1
佐渡	1



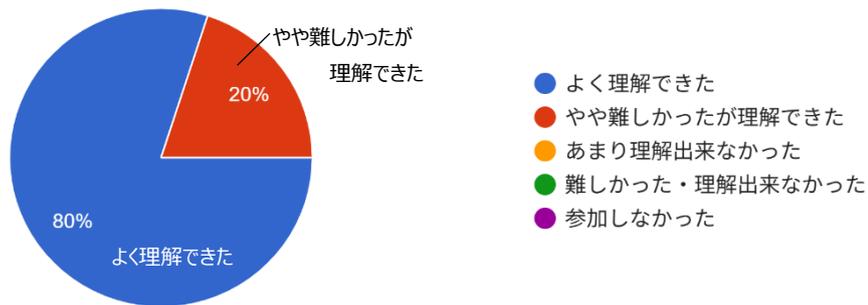
《職域事業部》

学校教育	2
公衆衛生	4
研究・教育	0
勤労者支援	1
地域活動	8
医療	5
福祉	5



研修Ⅰ：講義「非常食から災害食へー非常時の食に関わる5つの障害ー」

《講義の内容について》

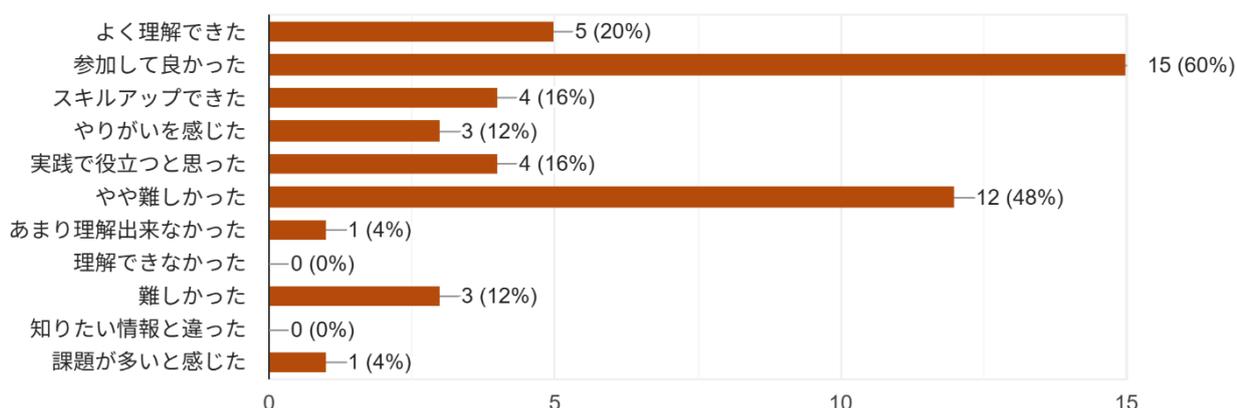


《講義内容についての質問・感想》

- ◆まず水が大切だとよくわかりました。その水をどこでどのように確保するのか、考えれば考えるほどに限られたスペースしかない住居に住んでいるので、悩ましいと思いました。
- ◆日頃の備えだけでなく、どう食べるかという練習の必要性を感じました
- ◆今回の研修会を毎年精度を上げてやっていただきたいです
- ◆研修の内容を踏まえた栄養士会としての活動を進めていけるように働きかけていきたい
- ◆日常の食事を災害時に生かせるようにしたいと思いました。
- ◆具体的なデータがあり、大変参考になった。実践されてこれだけあって、具体的でよかった。
- ◆家・地域・職場・行政との連携の中で、現在の課題が明確になり、とても良い研修会でした。
- ◆5つの障害及び対応策について理解せることができ、非常に勉強になりました。
- ◆ローリングストックをただ伝えるではなく、限られた条件で献立作成してから説明するのを機会があれば、実習したいと思いました。ありがとうございました。
- ◆日頃の備えが大切だと再認識できました
- ◆今まで知らなかった、過去の災害の時に起こっていた問題からの教訓を知ることができました。その教訓を生かして備えることの大切さを教えて頂きました。ありがとうございました。

研修Ⅱ：演習「（公社）新潟県栄養士会災害時支援計画に関する訓練」

《演習の内容について》 複数回答



《演習内容についての質問・感想》

- ◆難しかったです。
- ◆実際、どんな動きになるのかイメージができた。
- ◆実際に動いて見えてくるところがある反面、判断力の点は理解が伴わないと難しいことを実感した。
- ◆想定訓練各地域でやるべきです 予算をつけてもらえれば各地域でできます
- ◆流れの把握や問題点などがわかって良かった。
- ◆初めての試みであり今後決めていかなければならない内容がたくさんあることから、一つ一つリーダーやスタッフ、県栄養士会が主体的に取り組まなければならないものであると実感した。
- ◆スタッフも何か活動できる形が良いと思いました。
- ◆アクションカードの内容が頭に入っていないのでやるべきことが把握できていませんが、今回見学して課題が見つかり、良かったと思います。
- ◆具体的で実践的なので参考になった。レシピ集もとても実践に助かります。付箋をつけてのフリートークも皆さんの意見をまとめやすく発表しやすいと感じた。参考になりました。ありがとうございました。
- ◆災害時の被災地・周辺の支部の動きが明確になり、災害担当者だけでなく会員全体でマニュアルを周知する必要性を感じた。
- ◆発災現地支部の立ち上げ訓練を見学しましたが、実際に被災すると各栄養士は各職場対応に終わり、栄養士会としての活動は二の次になると思います。また自らが被災者となる可能性もあります。そんな中で支部長が発災直後に自宅を本部として、発災現地統括の役割を担うのは酷だと感じました。
- ◆訓練を通して、必要なもの、現在の不足部分や弱点を知ることができました。マニュアルが作られただけでなく、それを使った訓練は有効でした。
- ◆リーダーが役割を理解できてなかったと感じた

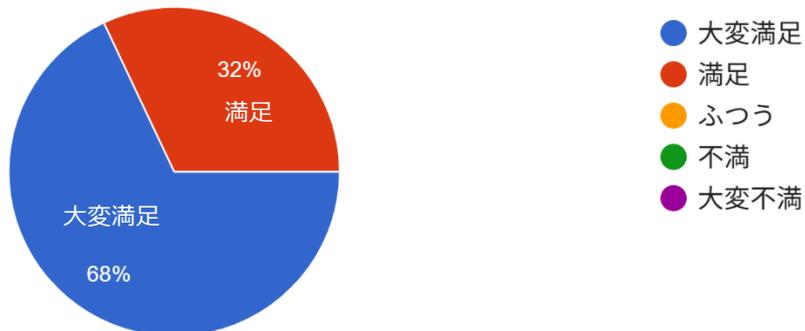
- ◆多方面からの時系列でのアプローチの必要性があることが理解された
- ◆演習ありがとうございました。災害時を想定して、打ち合わせ等なかったとは思いますが、動きがシナリオでもう少し分かりますければ助かりました。
- ◆やってみないとわからない部分が多いと思うので、今回のシュミレーションは良い機会になったのではと思う。
- ◆今回の課題がどう変わったか発表されると良いと思います。
- ◆安否確認がJDA-DATメンバーなのか、栄養士会会員なのか、混乱してしまいました。
それぞれ目的が違うのだと思いますが… 振り返りの中でも議論していたと思いますが、会員の安否確認の方法を決めておく必要があると思いました。

《県栄の災害対策に関するご意見・ご要望・今後取り上げて欲しい研修内容》

- ◆アクションカード9. の統括を支部長とリーダーや次期リーダー候補になるような方が一緒に行くことは可能でしょうか。
- ◆マニュアルにそって、クロノロとロジスティックの部分は、スタッフ内で被災者想定をした模擬訓練をすると理解が深まるのかなと感じました。
- ◆各地域で 支部で 開催したい 地域スタッフ、リーダー名簿欲しいです
- ◆今後も継続した訓練・研修の企画運営を望む
- ◆研修を継続してほしいと思います。
- ◆一日お疲れさまでした。初めて立ち上げるのは大変なことだったと思いますがありがとうございました。
- ◆訓練の度に災害時マニュアルがブラッシュアップされると思うので、定期的な研修があると良いと感じました。
- ◆被災した側は、どのタイミングで何を外部支援者に求めるのか「受援」についても研修があるとよいと思います
- ◆初動で被災地区の会員の安否確認をしても、活動できる人は限られるため、初動はJDADATスタッフ、リーダーのほかは三役、事務局、支部長、事業部長などそれぞれ各自が会長に安否を報告するだけでも十分かと思いました。その後落ち着いてから、会員の状況を把握するのも良いかと思いました。
- ◆課題がたくさんあることを知りました。課題解決と定期的な訓練が必要だなと感じました。
また自治体や県と連携した訓練の必要性を感じました。
- ◆実際の災害時に動けるように、マニュアルを見直し、研修会で繰り返し行なっていくとよいと感じました
- ◆県栄養士会としての役割や目指すところの提示あり そこを目指しての課題整理を計画的に取り組む必要性を感じた 会員としての防災知識の習得の機会を計画いただき ありがとうございました。
- ◆今日、午後と午前を分けてやった演習を同時にやってほしい。

研修Ⅲ：講義・ワークショップ「災害時の栄養・食生活支援活動の展開に向けた 平常時から取り組む民間組織としての対応」

《全体の印象》



《全体の印象の理由》

- ◆ 学びが深まった
- ◆ 具体的な活動がこれからの活動のヒントになりました。
- ◆ 取り寄せられる資料など知れたことと、新しい仲間ができたため
- ◆ 例などたくさんあげてくれて、わかりやすかった。
- ◆ 普段の生活ベースに備えをプラスした考えを持つことができたため
- ◆ 今やっている事のヒントを得た
- ◆ いつもの備えがもしもに活かされることがよくわかった。
- ◆ 官民連携の具体的な事例が参考になった。
- ◆ 実食訓練の大切さが理解できたからです。
- ◆ 実際は苦労もあると思いますが、明るく実行できている様子に元気をもらえました
- ◆ 常時からもしもを意識しておくことを知ったので。
- ◆ フェイズフリーの考え方と官民連携の大切さを学べたこと。
- ◆ 講義内容も充実してたし、グループワークも綱領も含めて、よかった。
- ◆ 現状の課題が明確になった。
- ◆ 災害時の食支援について学びを深めるとともに、グループワークを通して有意義な意見交換ができました。
- ◆ 味の素ファンデーションとしての取り組みを初めて知ることができた
- ◆ フェイズフリーについて、グループワークを通して学び考えさせられた
- ◆ グループワークで、ほかの栄養士の意見を聞いたので
- ◆ 実践的な内容だった
- ◆ 職域毎の違った視点で意見が出て大変参考になった。
- ◆ 味の素ファンデーションさんの活動が素晴らしかったから。またワークショップで同じ班のメンバーの意見を聞いた

ことは、自分とは違う視点からの意見で大変参考になったから。

- ◆具体的な例があり良かったです。
- ◆今後できるところからやっっていこうと思えた
- ◆講義は分かりやすく初めて知る内容も多かった。グループワークは良い交流になった。
- ◆フェーズフリー、新しい考え方でしたが、スツと胸に落ちました。

《特に印象に残ったポイントとその理由》

◆ワークショップ

- ・リアルティあって良かった
- ・意見交換できて、課題がよく分かり、改善するための話し合いができました。
- ・いろいろな考えを知ることができた
- ・グループワークも付箋を利用することで埋もれそうな意見も吸い上げられてよい方法だと感じた。
- ・できて良かったです。
- ・いろんな職域の方の考え方に触れることができた。
- ・他事業部の方とのワークショップは、様々な視点の意見を聞いてとても勉強になりました。
- ・異なる職域同士だから、それぞれが実際に災害にあったらどう連携したらよいのか不安に考えていることを知れた
- ・フェイズフリーを行うために、今の仕事でやらなければならないヒントをもらえたこと。

◆フェーズフリー

- ・フェーズフリーの取り組みを考えているとき、ワークショップをしているとき、前向きな気持ちになれました。
- ・今の時代にあった、型にはまらない考え方は大切。
- ・もしもいつも いつもがもしもに 何事もこれにつきる
- ・フェーズフリーの考え方が改めて大切だと気づきました
- ・災害時を想定して普段の生活を構築する事が結果的に一番負担が少ないと感じたので。
- ・具体策について考え、知ることができました。
- ・フェイズフリーが大切
- ・大切な概念だと感じた。家族や地域でフェーズフリーの活動に取り組めたらと思った。普段していないことは絶対できないため
- ・普段がそのまま有事の時も役に立つという事に繋がることを学べたから。

◆ローリングストックは普段から備えておくことと慣れておくが大切

- ◆能登半島地震被災地の支援活動について、現在の状況が伝わり、今後の進め方の参考になった。
- ◆立ち上げが立派だと感じた。
- ◆東日本震災の時のふれあい赤いエプロンプロジェクトに感動しました。

◆地域での活動

- ◆自身の取り組み方法を導くような 学習内容であり 参加者の意見がとても学びとなった。
- ◆実践的な講演も実践できそうで助かりました。

《今後、ご自身や組織で実際に行動しようと思ったことは何ですか？》

◆支部会員に伝え啓発したい

- ◆職域事業部内で、地域の講師で調理実習をするときに、今回実施したようなワークショップやどなたきも♪ レシピ・ありがとうレシピを調理実習・調理演習をしてみたいと思いました。ながら、ついでに、こっそり、そして、しれっと防災を仕掛けたいです。スポーツ栄養の現場にも仕掛けたいです。

◆行政、地域の団体などと連携を作っておくこと

- ◆顔の見える関係性。つながりを意識した活動。

◆缶詰のローリングストック、自宅の保存食材の補充

- ◆小さな地域食堂からの孤立化予防 災害対策 認知症予防

◆備蓄

- ◆防災と食との連携について、さらに様々な場面で防災分野に食を入れ込んでいきたい。

- ◆災害食の大切さを広めていきたいです。

- ◆平時から、フェーズフリーのこをできる範囲で取り入れたいと思いました

◆ローリングストックをしたい

- ◆備蓄の量、内容の確認と家族での共有を行いたいと思いました。

- ◆事故が発生する前に組織編成を細かなハブ的な組織まで作成しておくことは大切だと感じた。

- ◆自宅の備蓄食品の整理、支部会員への連絡方法の確立、特殊栄養食品ステーション設置場所の検討

- ◆食と栄養の面からフェーズフリーの概念と具体策を、仕事や活動に盛り込みたいと思います。

- ◆早速、帰宅後に家族にフェーズフリーの話をして、普段食べるものでの備蓄の買い物に行く。

職場内でフェーズフリーを周知したい。

◆普段から意識すること

- ◆県栄で用意が必要なものを整備していく

- ◆身近な地域の防災関連情報に関心を持っていきたいと思った。

- ◆家族で備蓄を食べたり、調理する機会を設けること。

- ◆家庭のローリングストックの確認、その食材を使って出来るレシピを家族で共有。

- ◆行政との顔の見える関係作りを実行したいと思います。

◆フェーズフリー

- ◆まずは我が家の備蓄のチェックと家族内共有。

◆フェーズフリーの考え方で、日頃から栄養士同士のつながりや、地域との関わりを持つようにしようと思いました。

《その他お気付きの点や今後の連携活動に向けたご意見など》

◆反復が大切ですので今後も年1回はこのような企画を開催いただけると良い

◆とりくみが広がることを願います。

◆連携の窓口となる方が長く支部長を務められる方でない、むしろ信頼を無くしてしまうことになりそうで心配です

◆今日の研修でマニュアル化されると良いなとおもわれるところがありました。

◆グループワークは毎度実施する形をとってほしい。

◆またお願いします

◆地域での関わりを持っていきたい。

◆県栄事務局の主体的な活動に期待したい（栄養CSでの災害食分野のPR、など）

◆活動があると理解が深まります。

◆集合型の研修会で顔を合わせたことが今後役に立つと思いました

◆JDA-DATの活動を行政の栄養士も把握する必要があると思いました。

◆各支部でも情報収集係やストック確認係、安否確認係を予め決めておくことも大切と感じた。

◆今後も研修にはグループワークを取り入れていただけるとよいと思います。

◆自分ができることから活動していきたいと思います。

◆自身の高齢者支援活動先で、ローリングストックなど災害と食について、盛り込んでいこうと思います。
特にこれからの買い物に行きにくい冬をきっかけに。

◆連絡体制について、まだあやふやな面が多いので、不安です

◆県栄養会の防災の取り組みを進めていただきたい。

◆ぜひ、職域間連携を意識したグループワークを継続して欲しい。

◆食べプロの冊子やマグネットの内容が素晴らしく、ぜひ活用させていただきたいと思った。

◆支部長同士の連携も大事だと思った

◆普段からの顔の見える関係が大切だと改めて認識しました。

◆会場がとても寒かったです

2025年度（公社）新潟県栄養士会 JDA-DATスタッフ教育研修（報告）

○開催日時：2025年11月9日（日）9:00～16:30

○場所：シティーホールプラザ アオーレ長岡（市民交流ホールB.C）

○対象者：JDA-DATリーダー・スタッフ、新潟県栄養士会災害対策委員会業務執行部、その他希望者

○参加人数：36名

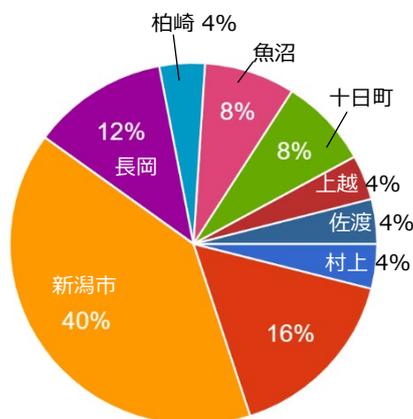
○研修会内容

- ・研修Ⅰ 講義「非常食から災害食へー非常時の食に関わる5つの障害ー」
 JDA-DATとして押さえておきたい災害時の食の捉え方
 講師：一般社団法人 日本災害食学会理事・副会長
 新潟大学フードサイエンスセンターアドバイザー 別府 茂氏
- ・研修Ⅱ 演習「災害時支援計画に関する訓練」
 災害対策アクションカードを用いた発災から本部立ち上げまでのシミュレーション体験
- ・研修Ⅲ 講義・ワークショップ「災害時の栄養・食生活支援活動の展開に向けた
 平常時から取り組む民間組織としての対応」
 講師：公益財団法人 味の素ファンデーション マネージャー・防災士 原 裕樹氏

○アンケート結果（回答数：25）

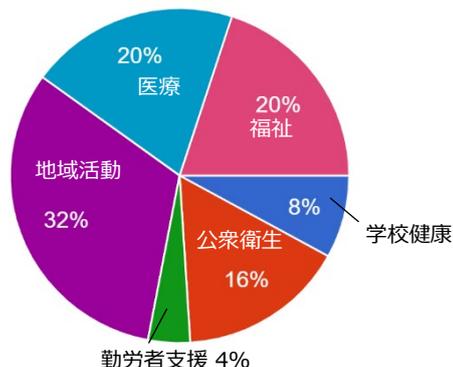
《所属支部》

村上	1
新発田	4
新潟市	10
三条	0
長岡	3
柏崎	1
魚沼	2
十日町	2
上越	1
佐渡	1



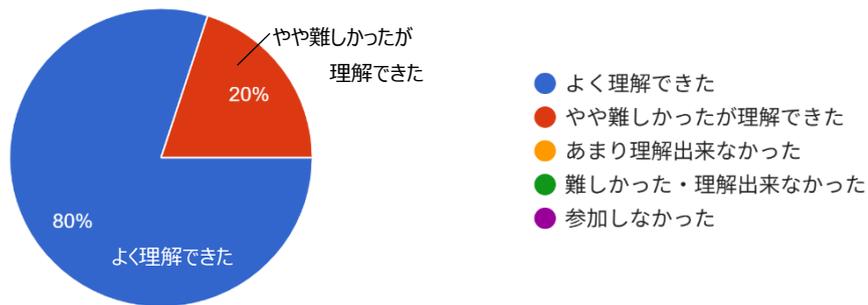
《職域事業部》

学校教育	2
公衆衛生	4
研究・教育	0
勤労者支援	1
地域活動	8
医療	5
福祉	5



研修Ⅰ：講義「非常食から災害食へー非常時の食に関わる5つの障害ー」

《講義の内容について》



《講義内容についての質問・感想》

- ◆まず水が大切だとよくわかりました。その水をどこでどのように確保するのか、考えれば考えるほどに限られたスペースしかない住居に住んでいるので、悩ましいと思いました。
- ◆日頃の備えだけでなく、どう食べるかという練習の必要性を感じました
- ◆今回の研修会を毎年精度を上げてやっていただきたいです
- ◆研修の内容を踏まえた栄養士会としての活動を進めていけるように働きかけていきたい
- ◆日常の食事を災害時に生かせるようにしたいと思いました。
- ◆具体的なデータがあり、大変参考になった。実践されてこれだけあって、具体的でよかった。
- ◆家・地域・職場・行政との連携の中で、現在の課題が明確になり、とても良い研修会でした。
- ◆5つの障害及び対応策について理解せることができ、非常に勉強になりました。
- ◆ローリングストックをただ伝えるではなく、限られた条件で献立作成してから説明するのを機会があれば、実習したいと思いました。ありがとうございました。
- ◆日頃の備えが大切だと再認識できました
- ◆今まで知らなかった、過去の災害の時に起こっていた問題からの教訓を知ることができました。その教訓を生かして備えることの大切さを教えて頂きました。ありがとうございました。

2025年度（公社）新潟県栄養士会 JDA-DATスタッフ教育研修（報告）

○開催日時：2025年11月9日（日）9:00～16:30

○場 所：シティーホールプラザ アオーレ長岡（市民交流ホールB.C）

○対 象 者：JDA-DATリーダー・スタッフ、新潟県栄養士会災害対策委員会業務執行部、その他希望者

○参加人数：36名

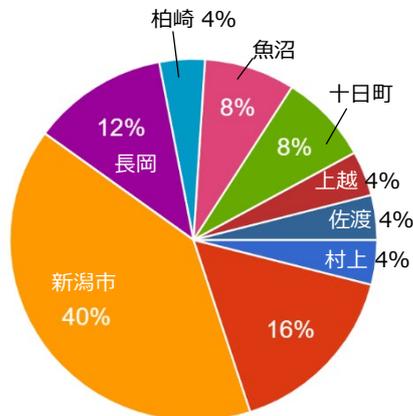
○研修会内容

- ・研修Ⅰ 講義「非常食から災害食へー非常時の食に関わる5つの障害ー」
 JDA-DATとして押さえておきたい災害時の食の捉え方
 講師：一般社団法人 日本災害食学会理事・副会長
 新潟大学フードサイエンスセンターアドバイザー 別府 茂 氏
- ・研修Ⅱ 演習「災害時支援計画に関する訓練」
 災害対策アクションカードを用いた発災から本部立ち上げまでのシミュレーション体験
- ・研修Ⅲ 講義・ワークショップ「災害時の栄養・食生活支援活動の展開に向けた
 平常時から取り組む民間組織としての対応」
 講師：公益財団法人 味の素ファンデーション マネージャー・防災士 原 裕樹 氏

○アンケート結果（回答数：25）

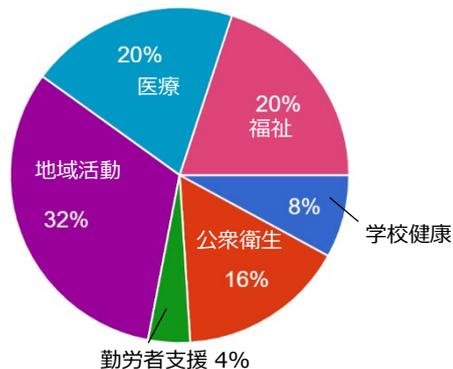
《所属支部》

村上	1
新発田	4
新潟市	10
三条	0
長岡	3
柏崎	1
魚沼	2
十日町	2
上越	1
佐渡	1



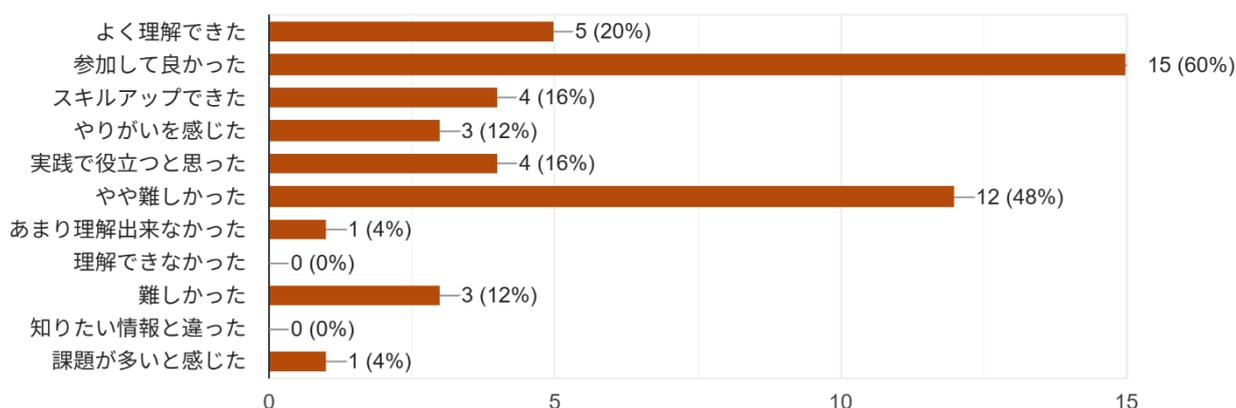
《職域事業部》

学校教育	2
公衆衛生	4
研究・教育	0
勤労者支援	1
地域活動	8
医療	5
福祉	5



研修Ⅱ：演習「（公社）新潟県栄養士会災害時支援計画に関する訓練」

《演習の内容について》 複数回答



《演習内容についての質問・感想》

- ◆難しかったです。
- ◆実際、どんな動きになるのかイメージができた。
- ◆実際に動いて見えてくるところがある反面、判断力の点は理解が伴わないと難しいことを実感した。
- ◆想定訓練各地域でやるべきです 予算をつけてもらえれば各地域でできます
- ◆流れの把握や問題点などがわかって良かった。
- ◆初めての試みであり今後決めていかなければならない内容がたくさんあることから、一つ一つリーダーやスタッフ、県栄執行部が主体的に取り組まなければならないものであると実感した。
- ◆スタッフも何か活動できる形が良いと思いました。
- ◆アクションカードの内容が頭に入っていないのでやるべきことが把握できていませんが、今回見学して課題が見つかり、良かったと思います。
- ◆具体的で実践的なので参考になった。レシピ集もとても実践に助かります。付箋をつけてのフリートークも皆さんの意見をまとめやすく発表しやすいと感じた。参考になりました。ありがとうございました。
- ◆災害時の被災地・周辺の支部の動きが明確になり、災害担当者だけでなく会員全体でマニュアルを周知する必要性を感じた。
- ◆発災現地支部の立ち上げ訓練を見学しましたが、実際に被災すると各栄養士は各職場対応に終わり、栄養士会としての活動は二の次になると思います。また自らが被災者となる可能性もあります。そんな中で支部長が発災直後に自宅を本部として、発災現地統括の役割を担うのは酷だと感じました。
- ◆訓練を通して、必要なもの、現在の不足部分や弱点を知ることができました。マニュアルが作られただけでなく、それを使った訓練は有効でした。
- ◆リーダーが役割を理解できてなかったと感じた

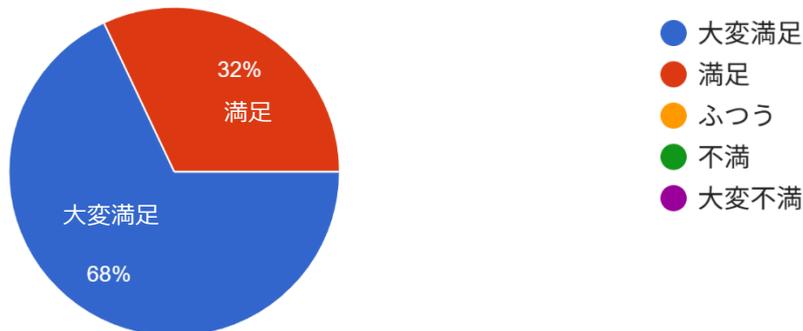
- ◆多方面からの時系列でのアプローチの必要性があることが理解された
- ◆演習ありがとうございました。災害時を想定して、打ち合わせ等なかったとは思いますが、動きがシナリオでもう少し分かりますければ助かりました。
- ◆やってみないとわからない部分が多いと思うので、今回のシュミレーションは良い機会になったのではと思う。
- ◆今回の課題がどう変わったか発表されると良いと思います。
- ◆安否確認がJDA-DATメンバーなのか、栄養士会会員なのか、混乱してしまいました。
それぞれ目的が違うのだと思いますが… 振り返りの中でも議論していたと思いますが、会員の安否確認の方法を決めておく必要があると思いました。

《県栄の災害対策に関するご意見・ご要望・今後取り上げて欲しい研修内容》

- ◆アクションカード9. の統括を支部長とリーダーや次期リーダー候補になるような方が一緒に行くことは可能でしょうか。
- ◆マニュアルにそって、クロノロとロジスティックの部分は、スタッフ内で被災者想定をした模擬訓練をすると理解が深まるのかなと感じました。
- ◆各地域で 支部で 開催したい 地域スタッフ、リーダー名簿欲しいです
- ◆今後も継続した訓練・研修の企画運営を望む
- ◆研修を継続してほしいと思います。
- ◆一日お疲れさまでした。初めて立ち上げるのは大変なことだったと思いますがありがとうございました。
- ◆訓練の度に災害時マニュアルがブラッシュアップされると思うので、定期的な研修会があると良いと感じました。
- ◆被災した側は、どのタイミングで何を外部支援者に求めるのか「受援」についても研修があるとよいと思います
- ◆初動で被災地区の会員の安否確認をしても、活動できる人は限られるため、初動はJDADATスタッフ、リーダーのほかは三役、事務局、支部長、事業部長などそれぞれ各自が会長に安否を報告するだけでも十分かと思いました。その後落ち着いてから、会員の状況を把握するのも良いかと思いました。
- ◆課題がたくさんあることを知りました。課題解決と定期的な訓練が必要だなと感じました。
また自治体や県と連携した訓練の必要性を感じました。
- ◆実際の災害時に動けるように、マニュアルを見直し、研修会で繰り返し行なっていくとよいと感じました
- ◆県栄養士会としての役割や目指すところの提示あり そこを目指しての課題整理を計画的に取り組む必要性を感じた 会員としての防災知識の習得の機会を計画いただき ありがとうございました。
- ◆今日、午後と午前を分けてやった演習を同時にやってほしい。

研修Ⅲ：講義・ワークショップ「災害時の栄養・食生活支援活動の展開に向けた 平常時から取り組む民間組織としての対応」

《全体の印象》



《全体の印象の理由》

- ◆学びが深まった
- ◆具体的な活動がこれからの活動のヒントになりました。
- ◆取り寄せられる資料など知れたことと、新しい仲間ができたため
- ◆例などたくさんあげてくれて、わかりやすかった。
- ◆普段の生活ベースに備えをプラスした考えを持つことができたため
- ◆今やっている事のヒントを得た
- ◆いつもの備えがもしもに活かされることがよくわかった。
- ◆官民連携の具体的な事例が参考になった。
- ◆実食訓練の大切さが理解できたからです。
- ◆実際は苦労もあると思いますが、明るく実行できている様子に元気をもらえました
- ◆常時からもしもを意識しておくことを知ったので。
- ◆フェイズフリーの考え方と官民連携の大切さを学べたこと。
- ◆講義内容も充実してたし、グループワークも綱領も含めて、よかった。
- ◆現状の課題が明確になった。
- ◆災害時の食支援について学びを深めるとともに、グループワークを通して有意義な意見交換ができました。
- ◆味の素ファンデーションとしての取り組みを初めて知ることができた
- ◆フェイズフリーについて、グループワークを通して学び考えさせられた
- ◆グループワークで、ほかの栄養士の意見を聞いたので
- ◆実践的な内容だった
- ◆職域毎の違った視点で意見が出て大変参考になった。
- ◆味の素ファンデーションさんの活動が素晴らしかったから。またワークショップで同じ班のメンバーの意見を聞いた

ことは、自分とは違う視点からの意見で大変参考になったから。

- ◆具体的な例があり良かったです。
- ◆今後できるところからやっっていこうと思えた
- ◆講義は分かりやすく初めて知る内容も多かった。グループワークは良い交流になった。
- ◆フェーズフリー、新しい考え方でしたが、スツと胸に落ちました。

《特に印象に残ったポイントとその理由》

◆ワークショップ

- ・リアルティあって良かった
- ・意見交換できて、課題がよく分かり、改善するための話し合いができました。
- ・いろいろな考えを知ることができた
- ・グループワークも付箋を利用することで埋もれそうな意見も吸い上げられてよい方法だと感じた。
- ・できて良かったです。
- ・いろんな職域の方の考え方に触れることができた。
- ・他事業部の方とのワークショップは、様々な視点の意見を聞いてとても勉強になりました。
- ・異なる職域同士だから、それぞれが実際に災害にあったらどう連携したらよいのか不安に考えていることを知れた
- ・フェイズフリーを行うために、今の仕事でやらなければならないヒントをもらえたこと。

◆フェーズフリー

- ・フェーズフリーの取り組みを考えているとき、ワークショップをしているとき、前向きな気持ちになれました。
- ・今の時代にあった、型にはまらない考え方は大切。
- ・もしもいつも いつもがもしもに 何事もこれにつきる
- ・フェーズフリーの考え方が改めて大切だと気づきました
- ・災害時を想定して普段の生活を構築する事が結果的に一番負担が少ないと感じたので。
- ・具体策について考え、知ることができました。
- ・フェイズフリーが大切
- ・大切な概念だと感じた。家族や地域でフェーズフリーの活動に取り組めたらと思った。普段していないことは絶対できないため
- ・普段がそのまま有事の時も役に立つという事に繋がることを学べたから。

◆ローリングストックは普段から備えておくことと慣れておくが大切

- ◆能登半島地震被災地の支援活動について、現在の状況が伝わり、今後の進め方の参考になった。
- ◆立ち上げが立派だと感じた。
- ◆東日本震災の時のふれあい赤いエプロンプロジェクトに感動しました。

◆地域での活動

- ◆自身の取り組み方法を導くような 学習内容であり 参加者の意見がとても学びとなった。
- ◆実践的な講演も実践できそうで助かりました。

《今後、ご自身や組織で実際に行動しようと思ったことは何ですか？》

◆支部会員に伝え啓発したい

- ◆職域事業部内で、地域の講師で調理実習をするときに、今回実施したようなワークショップやどなたきも♪ レシピ・ありがとうレシピを調理実習・調理演習をしてみたいと思いました。ながら、ついでに、こっそり、そして、しれっと防災を仕掛けたいです。スポーツ栄養の現場にも仕掛けたいです。

◆行政、地域の団体などと連携を作っておくこと

- ◆顔の見える関係性。つながりを意識した活動。

◆缶詰のローリングストック、自宅の保存食材の補充

- ◆小さな地域食堂からの孤立化予防 災害対策 認知症予防

◆備蓄

- ◆防災と食との連携について、さらに様々な場面で防災分野に食を入れ込んでいきたい。

- ◆災害食の大切さを広めていきたいです。

- ◆平時から、フェーズフリーのことをできる範囲で取り入れたいと思いました

◆ローリングストックをしたい

- ◆備蓄の量、内容の確認と家族での共有を行いたいと思いました。

- ◆事故が発生する前に組織編成を細かなハブ的な組織まで作成しておくことは大切だと感じた。

- ◆自宅の備蓄食品の整理、支部会員への連絡方法の確立、特殊栄養食品ステーション設置場所の検討

- ◆食と栄養の面からフェーズフリーの概念と具体策を、仕事や活動に盛り込みたいと思います。

- ◆早速、帰宅後に家族にフェーズフリーの話をして、普段食べるものでの備蓄の買い物に行く。

職場内でフェーズフリーを周知したい。

◆普段から意識すること

- ◆県栄で用意が必要なものを整備していく

- ◆身近な地域の防災関連情報に関心を持っていきたいと思った。

- ◆家族で備蓄を食べたり、調理する機会を設けること。

- ◆家庭のローリングストックの確認、その食材を使って出来るレシピを家族で共有。

- ◆行政との顔の見える関係作りを実行したいと思います。

◆フェーズフリー

- ◆まずは我が家の備蓄のチェックと家族内共有。

◆フェーズフリーの考え方で、日頃から栄養士同士のつながりや、地域との関わりを持つようにしようと思いました。

《その他お気付きの点や今後の連携活動に向けたご意見など》

◆反復が大切ですので今後も年1回はこのような企画を開催いただけると良い

◆とりくみが広がることを願います。

◆連携の窓口となる方が長く支部長を務められる方でない、むしろ信頼を無くしてしまうことになりそうで心配です

◆今日の研修でマニュアル化されると良いなとおもわれるところがありました。

◆グループワークは毎度実施する形をとってほしい。

◆またお願いします

◆地域での関わりを持っていきたい。

◆県栄事務局の主体的な活動に期待したい（栄養CSでの災害食分野のPR、など）

◆活動があると理解が深まります。

◆集合型の研修会で顔を合わせたことが今後役に立つと思いました

◆JDA-DATの活動を行政の栄養士も把握する必要があると思いました。

◆各支部でも情報収集係やストック確認係、安否確認係を予め決めておくことも大切と感じた。

◆今後も研修にはグループワークを取り入れていただけるとよいと思います。

◆自分ができることから活動していきたいと思います。

◆自身の高齢者支援活動先で、ローリングストックなど災害と食について、盛り込んでいこうと思います。

特にこれからの買い物に行きにくい冬をきっかけに。

◆連絡体制について、まだあやふやな面が多いので、不安です

◆県栄養会の防災の取り組みを進めていただきたい。

◆ぜひ、職域間連携を意識したグループワークを継続して欲しい。

◆食べプロの冊子やマグネットの内容が素晴らしく、ぜひ活用させていただきたいと思った。

◆支部長同士の連携も大事だと思った

◆普段からの顔の見える関係が大切だと改めて認識しました。

◆会場がとても寒かったです